

部会代表者会議

5月17日(木)、6月28日(木)に開催しました。

5月の会議で行った「はつかいち福祉ねっと代表者・副代表者」の選出では、「障がい別会議で持ち回り」というルールに沿い、代表者は林さん(精神障がい部会)、副代表者は岩見さん(こども部会)に決定しました。そして、はつかいち福祉ねっと全体の1年間のスケジュールを確認し、全体会に向けた内容の協議や各部会の取組計画の共有等を行いました。

6月の会議前には、部会代表者会議のメンバーで市議会を傍聴し、手話言語及びコミュニケーション条例(正式名称:廿日市市手話言語の普及及び多様なコミュニケーション手段の利用促進によるやさしいまちづくり条例)の可決・成立を見届けることができました。会議では、第3次廿日市市障がい者計画・第5期廿日市市障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画推進の今後のスケジュールの確認等を行いました。

計画推進会議

今年度の計画推進会議は年2回の開催とし、昨年度までとは一部変更しながら検討を進めています。改善点の1つとして、計画PDCAシートについてですが、これまで記載されていた地域課題を分かりやすく整理しました。また、これまで障害福祉課から各課へ照会する計画PDCAシートには、はつかいち福祉ねっとで抽出した地域課題が掲載されていなかったため、今年度から地域課題が掲載された計画PDCAシートを各課に回覧してもらい、障がいのある人からの声を意識してもらえるように変更しました。

第1回目の8月23日(木)に開催した会議では、今年度重点的に取り組むことや来年度予算に反映したいと検討していることなどを中心に、「第3次廿日市市障がい者計画」「第5期廿日市市障がい福祉計画」「第1期廿日市市障がい児福祉計画」に対する市の進捗状況について説明がありました。(主な報告として、「障害者差別解消支援地域協議会の定期開催」「手話言語およびコミュニケーション条例に基づく事業の実施」など)

今後は、各部会などで計画PDCAシートを見直し、各部会での取り組みなどについて検討していくことになるかと思えます。2回目の会議は、3月25日(月)を予定しています。

障がい別会議

身体障がい部会

6月11日(月)、市地域政策課、市観光課の職員さんと部会メンバーとで、宮島にできる地域拠点施設(旧宮島支所)とおもてなしトイレについての意見交換を行ないました。設計図には、これまであげてきた意見がすでに各所に反映されており、大変うれしく思いました。これからも誰にもやさしい廿日市になるよう、協力していきたいと感じました。

7月24日(火)、おりづる出前教室 in 広島ひかり園を開催しました。広島ひかり園入所者28名、広島ひかり園通所者1名、在宅1名で、レインボーマットシュート、野球盤、ビーンボウリング、スロービーなどのレクリエーションスポーツを楽しみました。予定時間をオーバーしてしまうほどの盛り上がりでした。



知的障がい部会

5月9日(水)に“あうるワークスペース”、“あおぞら”を見学しました。“あうるワークスペース”では、洗車、ミサンガづくり、木工品の組立等、“あおぞら”では、内職作業、手芸品づくり、地域で仕入れた野菜の販売等、どちらの事業所も利用者さん一人ひとりに合わせた作業内容等を工夫されていました。

7月11日(水)の定例会では、「防災」をテーマに事業所やそれぞれの家庭での防災対策(マニュアル、備蓄、防災グッズ等)、地域の避難先の状況、課題等を共有しました。このたび西日本豪雨災害で甚大な被害が出たこともあり、改めて防災の取組の重要さを感じました。

8月11日(水)の定例会で行った学習「障がい福祉サービス(介護保険移行)」では、障害福祉課の職員さんから、介護保険の基礎知識や障がい福祉サービスから介護保険への移行の流れ・対象者・利用料の仕組みなど、分かりやすく教えていただき、参加者のみなさんからは「今後も第2弾、第3弾の学習会を行ってほしい」との声が出ました。

9月14日(金)には、事業所の利用者のみなさん含め42名で、あいプラザ消防訓練に参加しました。参加された方からは「このような企画を単独の事業所ですることが難しいのでとてもありがたいです」「煙幕体験は、なかなかできるものではなく、“煙は怖い”ときちんと認識することができたように思います」等の感想がありました。



精神障がい部会

今年度も交流企画を計画しています。当事者のみなさん同士、行きたいところややりたいことをプレゼンテーションし、「温井ダム日帰り旅行(10月23日)」に決定しました。チラシづくりやレクリエーション、お弁当手配など、役割もみんなで分担し準備しています。ダム見学やレクリエーションなど、みんなで楽しんできたいと思います。

8月の定例会では、「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムについて」をテーマに話し合いをしました。西部保健所の矢吹さんから他市町の視察の報告をしてもらった後、「現状」「課題、困っていること」「方策、今後の取り組み」について意見交換しました。県(圏域)、市で役割分担をしつつ連携をはかり、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム構築に取り組んでいきます。

こども部会

4年前から恒例となっている夏休み工作教室(友和の里と共催)を開催しました。8月1日(水)の「収納棚中級編」には5組11人の参加者がありました。まず、会場となっていたピカピカの“グループホームゆうわ”(4月に開所)を見学させていただき、その後の棚づくりでは、のこぎり、電動のこぎりを使った木の切断から電動工具を使った組立までのすべての工程を子どもたちが行いました。友和の里を会場とした8月4日(土)の「収納棚初級編」には、3組7人の参加がありました。残念ながら2組お休みでしたが、和気あいあいとした雰囲気の中、友和の里の職員さんが用意してくださった材料を組み立てました。立派な棚を完成させることができ、子どもたちにとって夏休みの素敵な思い出になったと思います。友和の里



の職員さんには、子どもたちが工作を行いやすいように材料や会場設置など色々のご配慮いただき、心から感謝しています。

定例会では、今年度重点的に取り組むこととしている「こども部会アンケート」（昨年度実施）の集計・分析作業を進めています。

課題別会議

わかりやすい情報発信プロジェクト

7月11日(水)に今年度1回プロジェクトを開催しました。

代表者の選出後、今年度の取組について話し合い、引き続き、福祉ねっと通信の発行、事業所リスト・サービスガイドブックなどの最新情報の提供、ホームページ等を活用した情報発信に取り組むこととなりました。

また、スムーズに記事の更新が行えるよう、ホームページの原稿用フォーマットを作成しました。内容を充実させ、色々な方に役立つホームページにしていきたいと思えます。

サービスガイドブックについては、今年度中に新たな福祉サービスや地域生活支援システム等の情報を追加した最新版を作成することになりました。

★ホームページ★

各部会の取組や研修等の情報を随時掲載しています♪
ぜひ、ご覧ください！



はつかいち福祉ねっと

検索

手話言語&コミュニケーション条例プロジェクト

プロジェクトでは、みなさんから条例に対する色々な意見をいただきながら検討を進めてきました。そして、6月の廿日市市議会定例会で「廿日市市手話言語の普及及び多様なコミュニケーション手段の利用促進によるやさしいまちづくり条例」が可決され、7月1日から施行されることとなりました。

プロジェクトのメンバーはじめ、福祉ねっとの多くのみなさんと議会を傍聴し、可決の瞬間に立ち会いました。その後、眞野市長さんを始め多くの人と記念の写真を撮り、喜びを分かち合いました。

条例が制定されてからもプロジェクトは継続しており、啓発のためのパンフレット作成に取り組んでいます。また、市の職員研修（多様なコミュニケーションを学ぶ手話等体験研修）でもプロジェクトのみなさんに協力いただき、「障がいのある人の体験談」「市の窓口対応などで役立つ体験プログラム」等に取り組んでいます。



福祉就労ワーキング

福祉就労ワーキングでは、市役所・大野文化ゾーンでの販売、受注作業として商工はつかいち封入作業、アンケート入力作業、info.表参道（宮島）、ニューデیلیヤマザキストア売店廿日市市役所店での委託販売、市役所1階ロビー展示（事業所紹介）、販売を複数の事業所が協力して行っています。7月6日(金)の全体会では8事業所が販売を行いました。参加事業所からは、「毎年楽しみにしている」「製品のPRができた」「他の事業所のみなさんと交流ができた」などの感想がありました。

特別支援学校進路ワーキング

8月24日(金)に廿日市特別支援学校にて、今年度第2回特別支援学校進路ワーキングを開催しました。この夏休み期間中のワーキングの特徴は、市内の通所系事業所・相談支援事業所、廿日市市在住の生徒が在籍する市外特別支援学校、ワーキングメンバー(廿日市特別支援学校、ハローワーク廿日市、広島西障がい者就業・生活支援センターもみじ、市障害福祉課、きらりあ)が一堂に会し、それぞれの現状や課題を共有し合う貴重な機会になっているということです。

もともと、このワーキングは、「特別支援学校卒業後の進路先(福祉就労)が不足している」という課題を解決していくために設置しましたが、ここ数年は、新たな事業所参入により、進路調整自体はスムーズになっています。

一方、課題として浮上してきたのが「①直 B アセスメントの負担(※)」「②卒業と同時に利用できるグループホーム不足」です。①については、市内の就労移行支援事業所閉所を契機に、今年度から「隣市の就労移行支援事業所による学校内(作業学習等)でのアセスメント」というスタイルに変更することで、生徒本人や保護者の負担軽減につながりました。②については、具体的な解決策は見つかりませんが、まずは、市外のグループホーム情報などを収集し、生徒さんが無事グループホーム利用につながるよう動いていきたいと考えています。

※直 B アセスメントの負担：制度上、特別支援学校卒業後に就労継続支援 B 型事業所を利用する生徒は、在学中に就労移行支援事業所でアセスメントを受け、「一般就労ではなく、B 型事業所利用が適当である」と判断される必要があります。これまで、廿日市市では、他市でも行われているように「夏休み期間中に3日間、保護者送迎で就労移行支援事業所に通所する」という方法をとっていました。

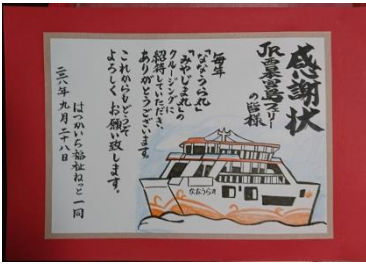
発達支援部会

今年度第1回障がい児支援関係事業所連絡会を6月21日(木)に開催しました。行政報告では、障害福祉課からサービス提供にあたっての留意点や研修等のお知らせがありました。恒例となっている事業所紹介では、「児童デイサービスきらめき」の取組を紹介していただきました。スライドを使った様々な活動内容の説明やうれしかったエピソードのお話などがあり、事業所の様子がよく分かりました。「廿日市市の児童・生徒の不登校について」というテーマの研修では、廿日市市教育委員会学校教育課指導主事 秋本先生から廿日市市の児童・生徒の不登校の現状や連携体制、未然防止のための取組等についてお話しいただきました。アンケートには「実際の数字などが見られ、廿日市市の児童・生徒の現状が分かりやすく知ることができた。これからの支援に役立てていきたい。」などの声が出されました。

6月22日(金)と9月18日(火)に発達支援部会を開催しました。6月22日(金)の部会の前半では、広島県と広島県発達障害者支援センターの職員さんに廿日市市の発達支援の現状について情報提供しました。後半では、部会の取組内容に関する協議を行い、今年度の取組として、例年行っているポジティブライフガイドの配布、「心をつなぐサポートファイル結愛」の普及啓発、障がい児支援関係事業所連絡会の開催に加え、新たにペアレントメンターについての検討を行うことになりました。9月18日(火)の部会では、各取組の進捗状況の確認や今後の取組についての協議を行いました。



余暇活動支援ワーキング



9月28日(金)に今年度6回目のクルージング企画「ななうら丸 de クルージング」で呉に出かけました。台風の影響を心配しましたが、波もそれほど高くなく、船内で気持ちの良く過ごすことが出来ました。

船内では、操舵室見学、感謝状の贈呈式、FMはつかいち船乗りレポート、呉観光ガイド(2階客室のみ)、島ガイド等が行われました。操舵室の見学では、JR西日本宮島フェリーの船員さんの制服を着ながら、楽しそうに記念撮影をされていました。3回目の呉となりましたが、今回は滞在時間が少し長かったこともあり、入船山記念館や呉市立美術館へ行くグループもありました。



参加されたみなさまからは、「操舵室等、普段見られないところが見られてよかった。」「日頃、会えない人と会うことが出来てよかった。」「ゆっくり、のんびりと海の景色と船を満喫できた。」等の感想をいただきました。

この後続く企画の資金作りのため、11月4日(日)開催のあいプラザまつりにバザー出店(型抜き)を予定しております。収益は、2月9日(土)「カローリング交流会(サンチェリー)」、3月2日(土)「みんなの交通安全教室&広島県警察音楽隊コンサート(さくらびあ大ホール)」に活用させていただきたいと思っています。皆さんのスケジュール帳に予定を入れておいてください。



訪問介護事業所連絡会



6月14日(木)定例会では、障害福祉課職員さんを講師に、今年度4月に報酬改定があったことをふまえ、「報酬改定に関連して」というテーマで学習会を開催しました。それぞれの解釈が正しいかどうかなど不安や疑問に思っている点について、みんなで確認・共有しました。

7月10日(火)に開催した救命講習では、7事業所から20名のヘルパーさんが参加され、年々新しくなる救命方法を学びました。実技の合間には、多くの質問が飛び交い、みなさんの熱心さが伝わってきました。

防災プロジェクト

9月14日(金)、「あいプラザ消防訓練」に参加しました。障がい別会議のみなさんとこの消防訓練に参加するのは今年で4回目。恒例行事としてすっかり定番化しています。当日の参加は、10事業所、2団体からの総勢51人と大盛況でした。まずは、あいプラザ関係者のみなさんと多目的ホールに集合し、消防署の職員さんから避難時のポイント等を教えていただいた後、5グループに分かれて、あいプラザの各部屋でスタンバイ。14時に非常ベルが鳴り、火元(調理室)確認後、避難誘導がスタート。避難誘導班の指示に従いながら、階段、スロープを使い、無事避難を終えた後に、「水消火器での消火体験」「煙幕体験」「オリロー(避難器具)での避難体験」を行いました。



スロープで避難

参加者アンケートでは、ほとんどの方が、「今後も今回のような消防訓練を継続した方が良い」「今後も参加したい」との回答でした。



避難完了後、消防署から講評

日常的に使用しているあいプラザですが、スロープへの出方、オリローの設置場所、各部屋の機能(例：非常時には3階講座室は自動で開錠される)等、知らないことがたくさんあります。こうした避難訓練を通して、「いざという時」のための準備をしておく必要はとても大切なことだと感じました。

地域生活支援システムプロジェクト

廿日市市地域生活支援 システム緊急時受入等 事業の開始

障害福祉課 ☎9152

休日や夜間に家族が入院するなどの緊急時に、自宅などで、1人で過ごすことができない障がいのある人の受け入れなどを行う「廿日市市地域生活支援システム緊急時受入等事業」を開始します。

利用は登録制です。緊急時の受け入れなどは、登録者が日頃利用している事業所などと調整するため、登録方法など詳しくは、障害福祉サービス等利用計画作成を担当している相談支援専門員などに相談してください。

問い合わせ 市役所1階障害福祉課または市障がい福祉相談センターきさらりあ ☎200224、各相談支援事業所

5月11日(金)に開催した「地域生活支援システム参加事業者調整会議」では、平成30年度報酬改定による地域生活支援システムへの影響や取組スケジュールの確認等を行いました。

そして、広報はつかいち8月1日号にシステムの紹介記事が掲載され、いよいよ、事業スタートとなりました。

今後は、相談支援専門員のみならずにご協力いただきながら、サ

ービス等利用計画作成時等に、「緊急時連絡票(兼申請書)」作成し、随時「登録」を受け付けます。

次回の事業者調整会議は10月頃の開催を予定しています。実際に事業をスタートさせてからの事業者のみなさんの状況を把握し、課題等の整理を行いたいと考えています。

相談支援部会

毎月定例会を開催しています。この定例会は、他の事業所の相談支援専門員同士が、学習、情報共有、意見交換のできる貴重な場となっています。

7月からは連続して、「地域生活支援システム」に関連した相談支援専門員の動きの確認や、実際に使う緊急時連絡票様式の作成など、グループワークを行なっています。今後も、みんなで疑問を出しあい、みんなで答えを出していく取り組みを続けていきます。

権利擁護ワーキング



ねっとのみなさん向けに権利擁護に関する研修を企画することがワーキング活動の中心でしたが、今年度活動を見直してみようということで、障がい別会議のみなさんにも広く参加者を募り、8月20日(月)、第1回目のワーキングを開催しました。24名の方が出席され、今年度の取組、ワーキングの方向性について話し合いました。今年度は「障害者差別

解消法」の理解・啓発を進めていくひとつの取組として、合理的配慮事例を集めたり、権利擁護に関する研修を企画していきます。研修については、またご案内させていただきますので、みなさんぜひご参加ください。

“障害者週間”ワーキング

8月29日(水)に今年度の障害者週間イベントに向けて、第1回目のワーキングを開催しました。昨年度のイベントの振り返りをしながら、12月8日(土)にゆめタウン廿日市で開催する今年度のイベントの企画について話し合いを行いました。今年度は同日開催の「人権フェスタ 2018」(「廿日市市手話言語の普及及び多様なコミュニケーション手段の利用促進によるやさしいまちづくり条例」施行記念事業)も予定されており、開催場所も近いので相乗効果で盛り上げていければと思っています。



～事業所リレーずいそう～ No.22～



平成30年3月より、児童デイサービスねっ子、を開所いたしました。
管理者の山本です。

私がこの事業を始めるきっかけになったのは、A君との出会いでした。A君と出会ったのは、A君が小学1年生の時でした、AD/HDの障害を持たれており、すぐに物に当たり壊す、気に入らない人には叩いたり、蹴ったりする行為があり、他の人達と一緒に遊びたいのに遊んでももらえず一人での姿をよく見かけていました。

そんな彼との出会いから5年が過ぎ前施設、退職後、私に会いたいと母親に頼み電話の連絡がありました。一度A君に会ってもらえませんかとのことでした、A君に会い話をする中、私のところに行きたいと、私のようなものでも、頼りにしていただける子どもがいるんだと。

3月開所よりA君にご利用いただいています。A君は小学6年生になられ、現在では誰とでも楽しく過ごされています。施設の中ではリーダー的な存在になられ色々なゲームを考えたり、低学年の相手もよくされています。これからも、障がいに悩まされている子どもの支えとなり、共に成長して参りたいと思います。



次回の事業所リレーずいそうNo.22は「
」です。

